

「地域力創造プロジェクト事業」 森本三谷地区

団体名●佐藤ゼミナール2年／代表者名●佐藤 将（経済学部経済学科・講師）

はじめに

金沢市地域力再生課は2023年度より都市政策局に新しく設置された課であり、若者をはじめとした外部からの視点を生かした地域力の再生＝地域の活性化、まちづくりの取り組みを行っている。佐藤ゼミでは本年度より地域力再生課から委託を受けて「地域力創造プロジェクト事業」として行っている。

今年度はその一環として森本三谷地区をフィールドとして地域活性化に資する調査を行った。

活動内容

(1) 森本三谷地区への現地視察

8月6日に森本三谷地区への現地視察として、三谷公民館と金沢市牧山ガラス工房にゼミ生22名で訪問した。まず三谷公民館にて三谷地区の自治会長から「みたに朝市」をはじめとした地域活動とこの地区での過疎化の現状についての説明を受けた。

次に金沢市牧山ガラス工房にてガラス作品の制作の様子や地域との関わりについて、ガラス工房の担当者から聞き取りを行った。かつては「どんぐりとガラスの里まつり」と呼ばれるお祭りが開催されており、地域住民との交流が行われていたが、現在は開催されていない理由も聞くことができた。

前期のゼミ内において森本三谷地区に関する事前学習を行ってきたが、実際に現地に赴いたことで、金沢市の農村部の地域実態の理解につながった。

(2) 「みたに朝市」への参加とアンケート調査

11月10日にゼミ生14名で「みたに朝市」に参加した。出店しているお店のお手伝いをするとともに、ゼミ内で考えてきた内容をもとにアンケートおよびヒアリング調査を行った。

成果、結果の考察

後期より3班に分けて、班ごとにゼミ生自身でテーマを設定して、地域活性化案を班ごとに議論してきた。この成果は1/27に行われた基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ成果発表会と2/17に行われた経済学部ゼミナールコンテストにて発表した。以下が各班で取り

組んだ内容である。

A 班：アンケート調査による「みたに朝市」の課題と提案

三谷地区の人口増加を促すためには、認知度向上が重要である。そこで、この地区の大きなイベントである「みたに朝市」を盛り上げることを目標と設定した。朝市の参加者にアンケート調査を行い、参加者の特徴の分析から地域活性化の方策を考察した。

B 班：『金沢情報』を活用した既存イベントの活性化

地域活性化を行う上で、新規のイベントを増やすと過疎化が進む地域において時間と労力が大きな負担となることが問題である点を踏まえ、「既存のイベントを盛り上げる」という形での目標を設定した。この目標を実現させるために『金沢情報』という情報雑誌に着目し、地域活性化に資する提案を行った。

C 班：廃校となる三谷小学校の再利用について

三谷小学校は1991年に三谷地区の4つの小学校を統合して設立された小学校であるが、児童数の減少を背景として2025年3月に閉校する。校舎自体は統合後に新しく建設されたものであるため、まだまだ利活用可能な状態である。これを踏まえて、三谷小学校校舎をどう再利用するかを提案を行った。

今後の課題、展望

今年度の活動から三谷地区の抱えている地域課題や「みたに朝市」を通じて、朝市に大学生もお店を出店して若年層の力で活性化してほしい意見も聞くこともできた。これを踏まえて、次年度以降に地域活性化に資する取り組みを行っていく。

